

○摩訶般若波羅蜜多心經 訓読

①
 観自在菩薩
 深般若波羅蜜多を行ずる時
 五蘊皆空なりと照見して
 一切の苦厄を度したもう

舍利子よ
 色は空に異ならず 空は色に異ならず
 色即ち是れ空 空即ち是れ色
 受想行識も亦復是の如し

舍利子よ
 是の諸法は空相にして
 生ぜず滅せず
 垢つかず浄からず 増さず減らず
 是の故に空の中には色も無く
 受想行識も無く

眼耳鼻舌身意も無く
 色声香味触法も無く
 眼界も無く 乃至意識界も無く
 無明も無く 亦無明の尽ることも無く
 乃至老死も無く
 亦老死の尽ることも無く

苦集滅道も無く 智も無く亦得も無し
 所得無きを以ての故に 菩提薩埵
 般若波羅蜜多に依るが故に
 心に罣礙無し 罣礙無きが故に

②
 恐怖有ること無し
 一切の顛倒夢想を遠離して
 涅槃を究竟す 三世の諸佛
 般若波羅蜜多に依るが故に
 阿耨多羅三藐三菩提を得たまえり

故に知る般若波羅蜜多は
 是れ大神咒なり 是れ大明咒なり
 是れ無上咒なり 是れ無等等咒なり
 能く一切の苦を除きて
 真実にして虚ならず

故に般若波羅蜜多の咒を説く
 即ち咒を説いて曰く
 揭諦 揭諦 波羅揭諦
 波羅僧揭諦 菩提薩婆訶
 般若心經

○回向文

願以此功德 普及於一切
 我等与衆生 皆共成佛道

求道(ごどう)の心得

令和五年三月法話 薬師寺管主 加藤朝胤

般若波羅蜜多心經の心

般若心經という経題の意味

- ①摩訶 ②般若 ③波羅蜜多 ④心 ⑤經
- ①大いなる ②智慧によつて ③幸せを戴く為の ④中心となる ⑤教え

登場人物とあらすじ

登場人物 お釈迦さま 観自在さま 舍利子さま その他多くのお弟子さま

あらすじ 多くのお弟子さまがお釈迦さまを囲んで修行していました。

その中で、観自在さまがご自身の修行の成果を、舍利子さまをはじめ多くのお弟子さまにお話しをされました。

その内容は、般若の行により、静かな安らぎの境地に到った事についてのお話でした。

また呪文を繰り返し唱えることがとても大切であることを教えられました。

そしてお釈迦さまによつて、その成果が素晴らしいものであり、また実践に優れたものであるとのお諭があり、多くのお弟子さまは般若の行の実践をされました。

静かな安らぎの境地とは

- ① 観自在菩薩 → 行 → (度) 一切苦厄
- ② 菩提薩埵 → 若 → (究竟) 涅槃
- ③ 三世諸佛 → 般 → (得) 阿耨多羅三藐三菩提

呪文は

大神呪であり、大明呪であり、無上呪であり、無等等呪である
 全ての苦しみを取り除き、真実で偽りの無いものである